

こ の 頃

千葉縣女子師範學校附屬幼稚園

(一) 幼稚園ごっこ

初夏の日ざしを背にうけながら一生懸命お砂遊
びに夢中になつてゐた榮子さんに厲子さん

「あゝ幼稚園ごっこよ」

「しない？ 早く行きませうよ」

フルヒ・シヤモジ・金盞を箱の中にしまふと一散に

お遊戯場へかけ入つて、

「けい子さんよせてね」

「あたしも させてね」

ピアノの前には五人掛けのお椅子が五六脚長方形に並べられもう十二三人の(女兒)園児が腰かけピアノの前にはひざ技さんの先生が巧みに両手をうごかし(ふたをしたまゝ)そばにはけい子さんの

先生がお口もお手々も一生懸命・結んでを始めて

ゐるところだつた。又二三人の女兒が

「入れて頂戴な」

「私もね」

「あたしも」

次から次へと女兒のみ入園生徒はたちまち二十

人を越へた。ところで先生のけい子さん、

「ああ、お花の組お遊戯をさせよう。お立ち」

と両手を一寸體前に出して〇〇先生の御様子其の

まゝ

「タ タラターララ タ タララ タタラターラ

ラ タ タララ」

お口のマーチで上手に圓形を造りお遊戯が始ま

つた。雀の子、キュービー、ほたるこい、鬼さん大きなお日様等たぬぎれになるまで踊つてかへりはスキップで元の場所へ、

「お雪組のお遊戯よ、」

又先生を先頭に圓は造られ同じお遊戯がくりかへされた。先生のお椅子に戻つたけい子さん、

「つね子さん、お唱歌を唄つて頂戴」

呼ばれたつね子さんは得意さうに「ほたるこいこいを唄つて席につくと一齊に拍手がなつた。つといて獨唱が四五人もつとつき皆先生にほめられて大得意。

「こん度はお外へ出ませうよ、お立ちして頂戴」先生二人の口ずさむマーチにピタリと足拍子揃へて一同はお遊戯場を出て行つた。いつも先生の前では決してお遊戯をしない希子さんも泣き虫の美ちゃんもはにかみやの道子さんも一緒に

(二) 汽車ごっこ

お遊戯場の一隅では初符賣りに(今朝大きい組の幼児達が畫用紙を切り、イナゲ・マクハリ・ツダヌマ・ウヘノ・ヨコハマ等の初符を造つた)忙しい。そばにある九人乗りのシーソーは男女のお客で満員だつた。運轉手兼車掌の萬里さんと良平さんは大満足で、一生懸命運轉してゐたがやがて、

「ピリ〜〜〜〜」

口笛がふかれると同時に運轉臺からおりた萬里さんの車掌さん左手を横へのばして、

「イナゲイナゲ」

と呼ばわりつゝシーソーを一廻り、希望の地についたお客は車掌に切符を渡して下車し又新しい切符を買ひに出掛けた。新たなお客をのせた汽車は車掌の口笛と同時に一回「ギシツ」と後もどりして又進出した。乗つてゐるお客様は皆にこ〜其の内に又、

「ピリ〜〜〜〜」

「マクハリーマクハリー」

二三名の乗客が變つて次は「ツダヌマ」日頃聞きおぼへて大人も及ばぬ口まね上手に各驛の口調そのまゝで、上野・東京・横濱・と四五十分も汽車は進行し續けた。

(三) 戦争ごつこ

十五六名づゝ敵・味方に分れた兵隊は砂場の前に整列した頭にはカーキ色の幼稚園帽もふさわしく小さい組の元ちゃん、みつちゃん等も皆木銃肩に大將の指圖通りになつてさも得意さう……

「右むけ右・左むけ左・前へ進め、」

兄さん達から見ならつてゐる次郎さん、通夫さんの大將を先頭に可愛い兵隊さん達は足拍子揃へて園舎の前まで來て止つた。こゝで敵、味方は分れて一方はクローバーの花壇へ、一方はそこから約三間ばかりはなれた植込みの中へ陣取つて、もう寢打ちが始つた。せいーばいの大聲をあげて

「ドンくくくくくくくくくく」

銃聲勇ましく五六分も續いたかと思ふと、

「トツカン」

大將の命令で皆は總立ちとなり、一同が

「ワア、………」

ときの聲をあげて前へ進み、入りみだれて鐵砲はサーベルのかわりに使はれ劍先さにさわつた者はコロリくとたほれてはあき、たほれては又あき上り何度も生きかへつて一生懸命活動は續けられた

「寢打ち——」

大將の命令で又クローバーと植込みにかけ入つた一隊は盛んに銃の引がねを引いて

「ドンくくくくくくくく」

寢打ち、突貫とかわるがわるにあきもせず精一ばいの元氣でかけづり廻り、一同がはやすとさの聲や銃の音に道行く人々はしばらく足を止め、あ

室の窓は可愛い女の子のお顔で埋つた。

備考 四月入園當時は元氣良しい子供は保姆達の兩袖に五六人づゝもさがり、はては先生のうばい合ひ、弱い子供は附添の袖の下にかくれたり、又遠くの方では友達のお面白そうな遊びにながめて居る仕未に私達は毎日の遊びを考へる事に一苦勞でした。ところがしらすくの間は附添をもはなれ遊びの中心も先生でなくてすむやうになり僅か七八十日ばかりたつたこの頃ではすつかり子供達の世界になつてお互ひの間に色々の遊びが考へだされ平和な一日一日が續いて居ります。幼稚園で、汽車ごっこ、戦争ごっこ、又は砂遊びにまゝごとくに幼兒達は互に發表し、表現し合つて種々な活動をいたして居ります。どちらにもありふれた事とは思ひますが、あまりに平和なそして喜ばしいシーンと思ひ二三つ簡單に描寫して見ました。

(二一・六・二〇)

◎宵待や女あるじに女客

蕪村



◎名月や池をめぐりて夜もすがら

芭蕉